

# とはち通信

※長崎西南部の史蹟・名勝・天然記念物等の紹介通信

## 第 6 号

※一説によると、かつて長崎西南部一帯を総称して戸ハヶ浦（とはちがうら）と呼ばれた時期がありました。現在、この名は存在しませんが、長崎西南部に対する尊敬の念をこめてこのようなタイトルをつけてみました。

二〇〇八年十月一日 落矢八郎

### 長崎の台場（概略その四）

前回は四郎が島の話の途中で終わったので、今回はその続きです。では：四郎が島の石垣の残りほとても良い状態ですが、島の西側の海に面した石垣は崩壊の危険があります。実際に崩壊した箇所があり、通路として用いている天端石は窪んでいます。可能であれば、記録保存をしたほうが良いでしょうが、それには莫大な費用がかかります。ここに難しい問題ですね：この調査は土成会という郷土史の研究会が行っており、長崎市立博物館に掲載されています。みなさん、是非一度は読んでみてください。佐賀藩の威信をかけて望んだ四郎が島台場は、現在でもその意気込みが十分に伝わる場所としてこれからもあり続けるでしょう。

の成長を遂げて行くのです。

一八九九（明治三二）年に要塞地帯法という法律ができ、長崎は要塞地帯区域に指定されました。この時、陸軍省はかつて長崎に存在した台場を砲台・兵舎等に利用しました。このことから、台場群が軍事的に大変重要な場所に位置していたことが言えるのではないのでしょうか？改めて長崎の台場の意味・意義に感心しました。今回、第三号から第六号までの四回にわたり長崎の台場を紹介してきました。時間的な流れに即して説明しましたが、長話になってみなさんに大変ご迷惑をかけてしまいました。ここにお詫びを申し上げます。読むうちに飽きた方もいたでしょう。ご容赦下さい。（文責 落矢八郎）

### 【引用・参考文献】

- ・外山幹夫ほか一九八〇「長崎県」『日本城郭体系』第十七巻 新人物往来社
- ・福田忠昭ほか一九三八『長崎市史』地誌篇名勝 舊蹟部 長崎市役所

### お知らせ

次号は金鑿谷について紹介します。



八郎岳頂上部から見た長崎湾

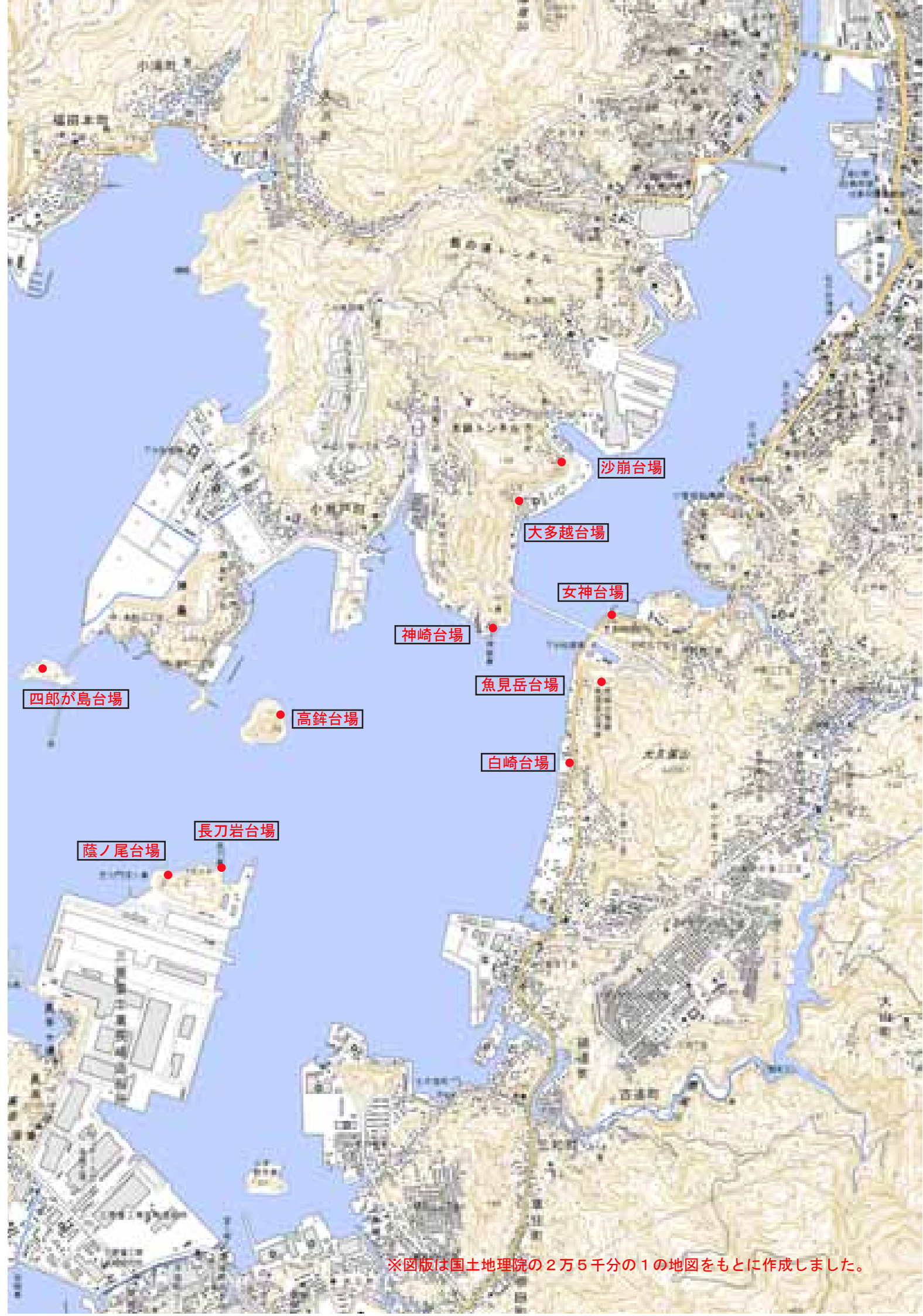
長崎湾の台場（一部）の位置関係です。この写真の右手には大多越・女神・白崎・沙崩が存在しました。

事務局  
とはちろう

- ホームページ
- メール

[h\\_ochiya@yahoo.co.jp](mailto:h_ochiya@yahoo.co.jp)

とはちろう通信で検索



※図版は国土地理院の2万5千分の1の地図をもとに作成しました。